

# 20<sup>th</sup> anniversary

since 2003



衣浦東部広域連合  
創立20周年記念誌



救ういのち、守るくらし



## ごあいさつ

衣浦東部広域連合長  
知立市長 林 郁夫

衣浦東部広域連合は、平成15年4月1日に碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市の5市における消防行政を所管する広域連合として、1本部、5消防署、6分署及び1出張所にて創立以来、令和5年で20年が経過いたしました。20年間にわたり安定的に活動できましたことは、これまで勤務されてきた消防職員の強い使命感や努力の積み重ねに加え、圏域住民の皆さまをはじめ、関係する団体の皆さまの多大なるご支援の賜物と心より感謝を申し上げます。

当連合の圏域は、創立当時の人口は47万人余りでありましたが、名古屋市近郊という地理的な条件に加え、自動車関連産業を中心とした工業の発展とともに都市化が進展した結果、現在の人口は53万人を超える地域となりました。

人口の増加や社会環境の変化に伴い、近年は災害の様相も変化をしております。火災件数は減少傾向にあるものの、救急件数は大幅に増加しております。また、大規模地震や突発的な集中豪雨による被害が全国各地で頻繁に発生するなど、災害が多種多様化しております。加えて、新型コロナウイルス感染症などの新たな脅威に対する危機管理が必要となっております。

これまで当連合は、圏域住民の生命と財産を守るべく、多様化した災害に適切かつ効率的に対応し、日々努力と精進を重ねてまいりました。今後も引き続き、組織として培ってきた消防に対する知見や経験を次世代の職員に継承し、時代に即した強固な消防組織を目指してまいります。

結びにあたり、今日までの感謝とともに、これからも、住民ニーズに応じた安全安心な消防行政に努めてまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げ、創立20周年のご挨拶とさせていただきます。



副広域連合長  
碧南市長  
禰宜田 政信



副広域連合長  
刈谷市長  
稲垣 武



副広域連合長  
安城市長  
三星 元人



副広域連合長  
高浜市長  
吉岡 初浩



## 創立20周年を祝して

衣浦東部広域連合議会  
議長 沓名 宏

このたび、衣浦東部広域連合が創立から20周年という大きな節目を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

さて、衣浦東部広域連合は、碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市の消防行政を担う組織として平成15年4月1日に創立しました。この地域は、昔から碧海郡としてつながりが深い5市でありました。これまでは、各市における消防団や危険物安全協会など地域における消防関係団体の皆さまとともに、それぞれ独自に消防活動や火災予防活動などが行われてきました。こうした5市の消防が一つとなり20年、それぞれの地域性を尊重しつつ、消防組織一丸となって、本日まで関係5市53万人の生命財産を守っていただきましたことに、心から感謝の意を表します。今後も末永く圏域住民の安全安心を守っていただける心強い存在であり続けられますよう、ご期待申し上げます。

衣浦東部広域連合議会といたしましても、目まぐるしく変化する社会情勢に対応し、住民の皆さまが安全かつ安心して暮らしていくことができる地域づくりの一翼を担うべく努力してまいります。

結びに、衣浦東部広域連合のさらなるご発展と、皆さまの益々のご健勝を祈念いたしまして、創立20周年にあたってのお祝いのご挨拶とさせていただきます。



## 連合創立20周年を迎えて

衣浦東部広域連合消防局  
消防長 可児 伸康

衣浦東部広域連合が平成15年4月1日に発足して、20周年を迎えられたことを心から感謝申し上げるとともに、これまで歴代消防長や諸氏先輩方の皆様が、様々な形で当連合の発展のためにご苦勞やご支援いただいたことに対して深く敬意を表します。

衣浦東部広域連合消防局は、現在、1本部5消防署6分署1出張所、443名で住民の安全安心のため日夜職務に邁進しているところでございます。

近年、全国各地で発生している地震などの自然災害は複雑多様化、大規模・広域化し、予想を超える甚大な被害が発生しております。この地域も南海トラフ巨大地震での甚大な被害が予想されており、住民の備えに対する関心や消防に対する期待、需要は益々大きくなり、消防の果たす役割はこれまで以上に重要なものとなっております。

我々は、地域に密着した消防として圏域住民の皆様の「生命」「身体」「財産」を守るために、そしてあらゆる災害にも対応できるよう、職員一同が一丸となって職務に精励してまいります。

結びに、今後も皆様方からのより一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げ、発刊に際してのご挨拶とさせていただきます。

## 衣浦東部広域連合の概要

衣浦東部広域連合は、平成15年4月に愛知県碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市の5市により、総合的な消防力の充実を図り、高度な消防サービスを提供することによって、圏域住民の生命・財産を火災から守るとともに、災害による被害の軽減を目指し設立されました。圏域人口(5市全体の人口)は53万人を超え、愛知県下では名古屋市に次ぐ規模の消防局です。

消防局の職員数は443人(令和5年4月1日現在)、圏域内を連合事務所(本部)と12署所(5消防署、6分署、1出張所)の体制で地域の安全・安心を守っています。



① 連合事務所(本部)



② 碧南消防署



③ 碧南消防署北分署



④ 碧南消防署東分署



⑤ 刈谷消防署



⑥ 刈谷消防署北分署



⑦ 刈谷消防署南分署



⑧ 安城消防署



⑨ 安城消防署北分署



⑩ 安城消防署南分署



⑪ 安城消防署西出張所



⑫ 知立消防署



⑬ 高浜消防署



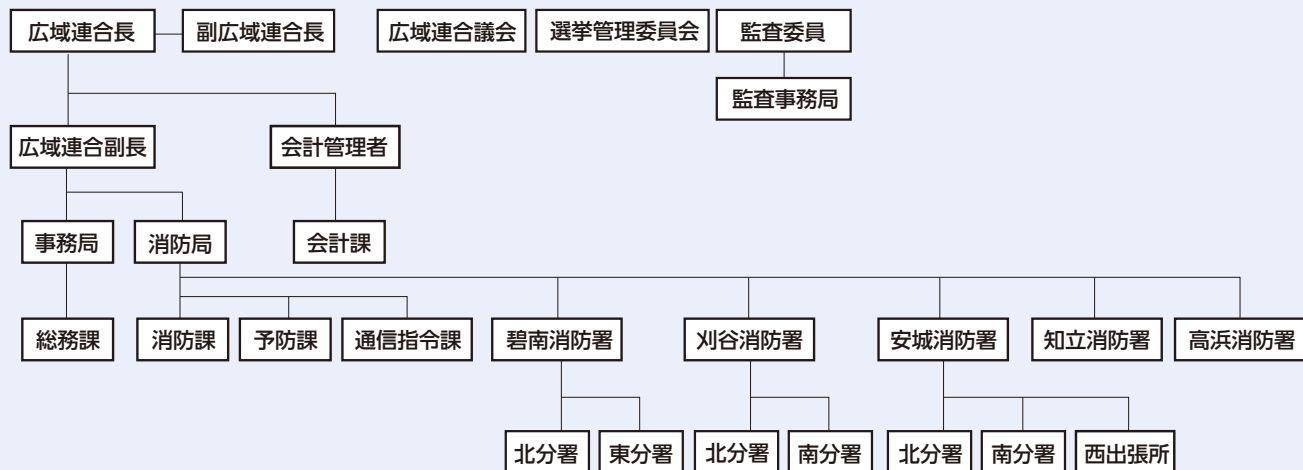
### 消防章

衣浦東部広域連合発足の前年(平成14年)、消防章のデザインを一般募集しました。全国から565点の応募があり、岡本和也さん(愛知県高浜市)の作品が選ばれました。

これまでの20年間、この消防章を衣浦東部広域連合消防局、消防署の署章・旗のほか幅広く活用しました。

【デザインの説明】中心にある図形は「走っている人」で、24時間働く消防士をイメージ化したものです。また、「衣浦東部」の「衣」という文字を図案化したものでもあります。

## 衣浦東部広域連合組織図



# 衣浦東部広域連合のあゆみ【1994(発足準備)~2003(発足)~2008】

平成6年(1994)	9月	・消防庁から「消防広域化基本計画の策定指針」が出される。
平成7年(1995)	7月	・愛知県職員を招き、関係5市(碧南市・刈谷市・安城市・知立市・高浜市)の消防長、消防本部庶務担当課長による消防広域化について研修会を開催。
平成8年(1996)	2月	・関係5市企画担当課長及び消防本部庶務担当課長会議において、消防広域化の必要性を検討し、「平成8年度から消防において広域化を検討する組織を設ける」方針が出される。
	5月	・関係5市の消防長で構成する「常備消防広域化検討委員会」が発足。
平成10年(1998)	10月	・広域消防組織検討部会を開催し、総務分科会、人事分科会及び財務分科会の3分科会を設ける。
平成12年(2000)	10月	・衣浦東部広域行政圏協議会のもとに広域消防企画検討室を設置。
平成13年(2001)	2月	・衣浦東部広域行政圏協議会において、消防を中心とした広域連合の設立を平成15年4月1日とすることで合意。
	3月	・関係5市の議会に衣浦東部広域行政圏協議会の検討結果について中間報告を提出。
	4月	・広域消防企画検討室のもとに総務、財務、人事、警防、予防及び通信の6部会と6分科会を設置。
	7月	・衣浦東部広域行政圏協議会のもとに広域連合設立準備室を設置。
平成14年(2002)	3月	・広域連合設置議案を関係5市の3月議会において上程、可決。
	4月	・広域連合設立準備室職員を常勤10名体制に拡充。
	5月	・愛知県知事から衣浦東部広域連合の設置許可が交付される。(13日)
	6月	・通信指令施設の契約議案を刈谷市議会に上程。契約を締結。 ・広域連合事務所の工事契約を締結。
	11月	・広域連合消防章が決定。
平成15年(2003)	2月	・広域連合事務所が完成。
	3月	・通信指令施設が完成。
	4月	・ <b>衣浦東部広域連合が発足。(1日)</b> ・衣浦東部広域連合消防局音楽隊が発足。 ・合併時救急救命士44名救急車数15台。 ・救急活動要領、資器材等の統一化へ向けて検討開始。 ・全署所(12署所)へ救急消毒室を順次設置、改修工事開始。
	12月	・衣浦東部広域連合消防計画を策定。
平成17年(2005)	1月	・衣浦東部広域連合消防局消防出初式を開催。
	4月	・緊急消防援助隊に9隊を登録。 (消火部隊5隊、救助部隊2隊、救急隊1隊、特殊装備(はしご)1隊) ・女性消防吏員1名を連合発足後新規採用。(女性消防吏員計2名に) ・愛知万博「万博消防」に職員5名を派遣。
	平成18年(2006)	4月
平成18年(2006)	6月	・住宅用火災警報器設置義務化条例施行。
	8月	・メール119の運用開始。
	平成20年(2008)	3月



平成15年(2003)  
エンブレム



平成16年(2004)衣浦港テロ対策訓練



平成17年(2005)救命技術発表会



平成17年(2005)救助技術大会



平成18年(2006)出初式



平成20年(2008)出初式

# 衣浦東部広域連合のあゆみ【2009~2018】

平成21年(2009)	2月	・安城西出張所の消毒室設置工事が完了。
	4月	・指揮調査隊の運用開始。 ・緊急消防援助隊に後方支援隊1隊を追加登録し、11隊となる。 (消火部隊5隊、救助部隊2隊、救急隊2隊、特殊装備(はしご)1隊、後方支援隊1隊) ・防火対象物台帳及び危険物台帳を統一。
	12月	・指揮調査車庫を新築。
平成23年(2011)	3月	・東日本大震災により緊急消防援助隊出動。[宮城県亘理町、山元町] (4月24日まで延べ45日間、30隊136人派遣)
	12月	・救助艇碧(みどり)号更新。
平成25年(2013)	4月	・多言語コールセンターサービスの運用開始。
	10月	・平成25年度緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練を実施。(碧南市港南町、港本町)
平成26年(2014)	5月	・救急救命士教育体制の構築、救急救命士教育の開始。
	8月	・碧海地区建築消防行政担当者会議を開催。
	10月	・御嶽山の噴火により緊急消防援助隊出動。[長野県木曾郡王滝村] (10月22日まで延べ8日間、3隊15人派遣)
平成27年(2015)	3月	・消防救急デジタル無線運用を開始。
	4月	・煙火消費許可及び液化石油ガスの一部許認可事務権限移譲。
	5月	・各庁舎外に市民が持ち出し可能な施設用AED設置。
平成28年(2016)	1月	・バイスタンダーフォローアップカード配布開始。
	4月	・緊急消防援助隊に消火隊1隊を追加登録し、12隊となる。 (消火部隊6隊、救助部隊2隊、救急隊2隊、特殊装備(はしご)1隊、後方支援隊1隊)
	5月	・伊勢志摩サミット消防特別警戒に職員6名を派遣。
	11月	・全救急隊に自動式心マッサージ器の配備完了。
平成29年(2017)	3月	・高機能消防指令システムを更新。 ・集団救急災害用資器材配備を開始。
	4月	・愛知県の都道府県違反是正支援アドバイザー就任。 ・緊急消防援助隊に救急小隊2隊、特殊装備小隊(水槽)1隊を追加登録し、15隊となる。 (消火小隊6隊、救助小隊2隊、救急小隊4隊、特殊装備小隊(はしご)1隊、特殊装備小隊(水槽)1隊、後方支援小隊1隊) ・消防課の組織体制を消防係、救急救助係から消防係、救急係とする。
	4月	・緊急消防援助隊に消火小隊1隊を追加登録し、16隊となる。 (消火小隊7隊、救助小隊2隊、救急小隊4隊、特殊装備小隊(はしご)1隊、特殊装備小隊(水槽)1隊、後方支援小隊1隊)
	4月	・4月から都市型捜索救助訓練を開始。 ・西三河地区メディカルコントロール協議会事務局となる。 ・衣浦東部広域連合査察規程の全部改正。 ・重大違反対象物の公表制度運用開始。 ・高度査察員制度運用開始。
平成30年(2018)	7月	・平成30年7月豪雨により緊急消防援助隊出動。[岡山県倉敷市] (7月12日まで延べ7日間、3隊11人派遣)
	10月	・夜間特別査察開始。 ・全署所に救急資器材管理システム(SPD)導入。
	11月	・全署所に訓練用高度救急救命処置シミュレーター配備完了。(集合教育用も含め14体)
	11月	・全署所に訓練用高度救急救命処置シミュレーター配備完了。(集合教育用も含め14体)



平成23年(2011)  
東日本大震災により緊急消防援助隊出動



平成23年(2011)救助艇 碧(みどり)号更新



平成26年(2014)  
御嶽山の噴火により緊急消防援助隊出動



平成28年(2016) 警防技術交流会



平成30年(2018) 都市型救助捜索



平成30年(2018) 局大規模訓練



平成30年(2018)  
平成30年7月豪雨により緊急消防援助隊出動

# 衣浦東部広域連合のあゆみ【2019~2024】

令和元年(2019)	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・碧南北分署車庫を新築。</li> <li>・テロ災害対策として講演会・教育実施。</li> </ul>	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テロ対策用資器材としてターニケット(止血帯)を全救急車に配備。</li> <li>・ラグビーワールドカップ2019™消防特別警戒[豊田市]に職員10名を派遣。</li> </ul>	
令和2年(2020)	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務省消防庁より高機能救命ボートが配備される。</li> <li>・消防庁長官から竿頭綬を授与される。</li> </ul>	
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NET119緊急通報システムの運用開始。</li> </ul>	
令和3年(2021)	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防行政事務の電子申請実証実験参加。(ぴったりサービス)</li> <li>・緊急消防援助隊に毒劇物等対応小隊1隊を追加登録し、17隊となる。(消火小隊7隊、救助小隊2隊、救急小隊4隊、特殊装備小隊(はしご)1隊、特殊装備小隊(水槽)1隊、後方支援小隊1隊、毒劇物等対応小隊1隊)</li> </ul>	
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火フードの運用を開始。</li> </ul>	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の対応救急隊、7隊にアイソレーター(感染症患者搬送具) 配備完了。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い全救急車に救急車内隔離板設置完了。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い全救急車にオゾン発生器設置。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い全救急車にストレッチャー用エアロゾルフレームカバー配備。</li> <li>・スマートフォンに医療機関へ画像や動画を送信できるアプリを導入。</li> <li>・スマートフォンに救急隊多言語音声翻訳アプリを導入。</li> </ul>	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土石流災害により緊急消防援助隊出動。[静岡県熱海市](7月19日まで述べ10日間、4隊18人派遣)</li> </ul>	
	令和4年(2022)	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防活動(ホットトレーニング)研修会を開始。</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救助服型活動服の運用を開始。</li> <li>・伊勢湾岸自動車道に刈谷スマートインター開設に伴い、高速道路等災害対応資器材配備。</li> </ul>	
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急消防援助隊に後方支援小隊1隊を追加登録し、18隊となる。(消火小隊7隊、救助小隊2隊、救急小隊4隊、特殊装備小隊(はしご)1隊、特殊装備小隊(水槽)1隊、後方支援小隊2隊、毒劇物等対応小隊1隊)</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防救助教育訓練(水面救助訓練)を実施。</li> </ul>		
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度救助隊の運用開始となる。(刈谷消防署、安城消防署)</li> </ul>		
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防行政事務の一部電子申請受付開始。</li> <li>・映像通報119の運用開始。</li> </ul>		
令和5年(2023)	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣浦東部広域連合創立20周年を迎える。</li> <li>・救急救命士137名、救急車数16台(予備車含む)、指導救命士数13名。</li> </ul>	
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣浦東部広域連合創立20周年記念イベント「キヌフェス」開催。</li> </ul>	
令和6年(2024)	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震により緊急消防援助隊出動。[石川県輪島市](1月31日まで延べ31日間、27隊110人派遣)</li> </ul>	



令和元年(2019) もっとしろうよきゅうQたい



令和2年(2020) 高機能救命ボート配備



令和2年(2020) 高機能救命ボート訓練



令和2年(2020) 局大規模合同訓練



令和3年(2021) アイソレーターの配備



令和4年(2022) 警防技術交換会



令和5年(2023) 西三河NBC訓練



令和6年(2024) 能登半島地震により緊急消防援助隊出動



# 主な車両・服装

## 救急自動車



旧車両

平成16年(2004)



平成28年(2016)

救急自動車は、傷病者を医療機関へ搬送する車両です。高度な救急救命処置を行うため、車内スペースを広くしているほか、多くの救急救命処置用資器材を積載しています。

## 消防ポンプ自動車



旧車両

平成17年(2005)



令和5年(2023)

消防ポンプ車は、タンク車などとも呼ばれています。消防水利から水をとるまで(他の車両から送水を受けるまで)の間に、タンクの水を使って消火ができる車両です。

## 救助工作車



旧車両

平成16年(2004)



令和3年(2021)高度救助隊車両

救助工作車は、火災はもとより、交通事故や水難事故などに出勤して、人命救助をする車両です。救助工作車には、エンジンカッター(切断機)、エアソー(空気鋸)や油圧救助器具などの救助器材を積載しているほか、車体にはクレーンやウインチ、照明装置などを装備しています。

## 化学消防車



旧車両

平成22年(2010)



平成30年(2018)

化学消防車は、主として水では消火することのできない油脂火災や化学火災に対応するために、水と薬液(泡原液)を混合させる混合装置を有し、泡ノズルで発泡させることで酸素を遮断して効果的に消火を行う車両です。

## はしご自動車



旧車両

平成16年(2004)



令和元年(2019)

はしご自動車は、油圧で動作するはしごを装備し、ビルなどの高層建物火災で逃げ遅れた人を救出したり、消火をしたりする車両です。最近では、はしごの先端にバスケットを装着し、はしごを下方向にも伸長することができるため、地上から直接バスケットに乗ることができますし、水難救助などにも活躍します。

## 服装



活動服



防火衣



救急服



救助服

# 緊急消防援助隊の活動

大規模災害や特殊な災害が発生したとき、被災地の消防機関だけでは対処できないことも想定されます。このような場合には、被災地の要請を受け、緊急消防援助隊が地域を越えた消火・救助活動を実施します。緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に全国の消防機関による応援を速やかに実施するため、平成7年度に創設されました。

衣浦東部広域連合では平成17年に緊急消防援助隊に9隊を登録しました。その後隊数を徐々に増やし、令和4年に18隊とし、消火、救助、救急、特殊装備など、さまざまな面から地域を超えた活動ができる体制を作りました。令和6年2月までに計5回出動しました。

## 衣浦東部広域連合緊急消防援助隊の出動記録

平成23年(2011) 3月	東日本大震災 宮城県亶理町、山元町 4月24日まで延べ45日間、30隊136人派遣
平成26年(2014) 10月	御嶽山噴火災害 長野県木曾郡王滝村 10月22日まで延べ8日間、3隊15人派遣
平成30年(2018) 7月	平成30年7月豪雨 岡山県倉敷市 7月12日まで延べ7日間、3隊11人派遣
令和3年(2021) 7月	熱海市伊豆山土石流災害 静岡県熱海市 7月19日まで延べ10日間、4隊18人派遣
令和6年(2024) 1月	令和6年能登半島地震 石川県輪島市 1月31日まで延べ31日間、27隊110人派遣



東日本大震災における活動



御嶽山噴火災害における活動



平成30年7月豪雨災害における活動



熱海市伊豆山土石流災害における活動



令和6年能登半島地震における活動

# 消防救助技術大会の記録

消防救助技術大会は、救助技術を向上させるために、基礎的な要素を鍛えながら、消防救助活動に必要な体力、精神力、技術力を養うことを目的としています。大会では多くの消防救助隊員が一堂に会し、競い合い、学び合うことで、模範となる隊員を育成し、同時に、大会を通じて消防技術の高さ、力強さ、優しさをアピールし、市民の期待に応えることも大きな目的としています。

## 全国消防救助技術大会出場一覧

開催年度	開催場所	訓練種目	出場者
平成15年度	宮城県	ロープブリッジ渡過	小笠原圭祐
		基本泳法	石川慎弥
平成16年度	兵庫県	ロープブリッジ渡過	小笠原圭祐
		ロープ登はん	高木現行
平成17年度	埼玉県	基本泳法	石川慎弥
平成19年度	東京都	引揚救助	小林俊貴、荒海浩司、山本昌広、清川陽介、坂神由哉
		基本泳法	石川慎弥
平成21年度	神奈川県	はしご登はん	金子徹郎
平成22年度	京都府	溺者救助	石川慎弥、藤井太壺、渡辺俊一
平成24年度	東京都	基本泳法	加藤昌純
平成25年度	広島県	基本泳法	大森迪明
平成26年度	千葉県(中止)	ほふく救出	但馬直樹、齋藤正洋、神原大樹
		溺者救助	大森迪明、織田悦史、犬石健人
平成27年度	兵庫県	人命救助	田中未来、川上慎一郎、筒井群
平成30年度	京都府(中止)	ロープブリッジ救出	宮 剣介、杉本卓弥、金子大輝、濱嶋政成
		人命救助	前田侑弥、三島大和、鈴木良輔
令和4年度	東京都	ほふく救出	近藤柗平、下村豊信、長濱朋哉



ほふく救出



ロープブリッジ救出



引揚救助



溺者救助



障害突破

# 消防職員意見発表会の記録

消防職員意見発表会は、消防職員が日々の業務の中で感じていることや経験したことを通じて、今後自分自身や消防の組織がどうあるべきかなどについての考えや決意を述べる場となっています。これにより、消防業務に関するさらなる知識の研鑽や意識の高揚を図ることを目指し、毎年開催されています。

## 消防職員意見発表会発表者一覧 (愛知県大会・東海大会・全国大会)

開催年度	発表者	結果
平成17年度	高松俊朗	愛知県大会 優秀
平成27年度	野村知輝	愛知県大会 優秀
令和2年度	及川啓太	愛知県大会 優秀・補欠
令和5年度	天野将芳	愛知県大会 最優秀
		東海大会 最優秀
		全国大会 入賞



# 消防局音楽隊の活動

平成15年4月1日、防火防災思想の普及及び隊員の士気高揚に貢献するため、消防職員で構成する衣浦東部広域連合消防局音楽隊が発足しました。住民の皆様へ“火災予防”への理解と協力を呼びかけるため、圏内各地で年間を通じて演奏活動を行っています。これからも住民と消防のかけ橋として、皆様に親しまれる音楽隊を目指し、演奏活動を続けていきます。



# 警防

火災など複雑多様化する災害に対応するため、日々、消防技術や教養の研鑽に努め、災害発生時は確固たる戦術をもって立ち向かい、被害を最小限にとどめ、市民の生命・身体・財産を守ります。



石油コンビナート等防災訓練



要救助者搬送訓練



警防技術交換会



消火活動

# 救急

傷病者の症状に応じた応急処置を行いながら、迅速に医療機関へ搬送します。救急救命士法の制定や高規格救急自動車の配備により、救急隊の処置範囲は飛躍的に拡大し、救命率向上に繋がっています。



傷病者搬送



CSRM狭隘空間



集団災害



交通事故対応

# 救助

火災、交通事故、水難事故のほか、地震などの大規模災害から市民の生命を救うため、高度な知識、技術と特殊な装備を備えています。人命最優先で活動し、あらゆる救助現場で安全迅速に現場活動ができる体制を整えています。



高所救助訓練



特殊災害訓練



水面救助訓練



高度救助隊

# 予防

火災の発生を未然に防ぐために事業所等へ立入検査を行い、必要に応じて指導を行っています。また、建物が建築される計画段階から防火に関し審査する建築同意事務やガソリン、灯油等の貯蔵、取扱いについて規制する危険物規制事務を行っています。



地下タンク検査



防火キャンペーン



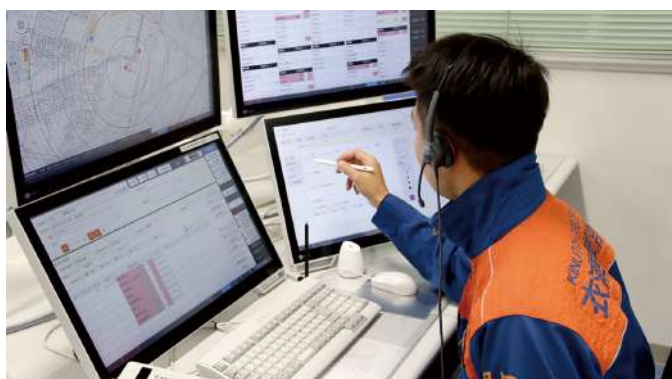
防火教室



夜間特別査察

# 通信指令

119番通報を受信し、災害に応じて消防隊、救急隊、救助隊に出動指令を出しています。音声による通報が困難な障害のある方のためのファクシミリ、メール、インターネットを利用した通報システムや、通報者が現場状況の映像をリアルタイムに伝送するシステムも備えています。



119番通報 (指令システム)



映像通報システム



消防救急デジタル無線



AVM (車両運用端末装置)



# 指揮調査

現場では指揮者の補助として、救護の必要な人の把握や情報収集、隊員の安全管理、指揮者の決定事項の伝達やそれを実行するための補佐を行っています。また、火災時は指揮者の補助と並行して火災の原因調査も行います。



情報収集



指揮調査車



火災原因調査



燃焼実験

# 衣浦東部広域連合 創立20周年記念事業

創立20周年を迎え、地域の皆様に感謝の気持ちを伝えるとともに、消防と救急の重要性を知っていただくために、さまざまな活動を行いました。

## 公式キャラクター「キヌビー」誕生

蜂の『素早く動き組織力に優れている』という特性が消防と共通しているため、蜂 (bee) をモチーフとしました。

火災や病気で困っている人がいたら、いち早く駆けつけて、仲間の消防士たちと協力して助けてくれる、みんなのヒーロー『キヌビー』が誕生しました。



## 創立20周年記念ロゴの作成

ひと目で衣浦東部広域連合が5市(碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市)で構成されているとわかるデザインにしました。



## 消防ひろばの開催

5市で消防に関するイベントを計6回開催しました。

〈主な実施内容〉

- 消防車両7台による防火広報
- 防災ヘリコプター離発着・視察訓練
- 廃棄消防ホースでコースターづくり
- 模擬ホースや水消火器による消火体験
- 防火衣の試着(写真撮影) など
- ドローン実演
- 消防団による放水体験
- 消防車展示(写真撮影)
- 煙体験ハウス

## 公式PR動画の作成、公開

テーマ: ~20年の進化と伝承~

「圏域住民の生命・身体・財産を守るために」

多くの方に視聴していただけるようにYouTubeで公開しています。



公式PR動画

## 創立20周年記念誌の発行

これまで歩んできた20年を振り返るデジタル記念誌として作成しました。

## 創立20周年記念オリジナル消防カードの作成、配布

6種類のオリジナル消防カードを作成し、「消防ひろば」(計6回開催)ごとに異なる種類のカードを配布しました。また、アンフォーレ(安城市)で開催された「KINU20thフェス(キヌフェス)」では全種類配布しました。



▲裏面

◀表面(6種)

## 創立20周年記念ポスターの作成

職員全員で20の文字を作り、衣浦東部広域連合創立20周年と、団結力を地域の皆様にPRしました。



## 創立20周年記念のぼりの作成

各消防署やイベント会場に設置し、記念事業を盛り上げました。

## オリジナルシールの作成、配布



## オリジナルスタンプの作成

オリジナルスタンプは、「消防ひろば」や「KINU20thフェス(キヌフェス)」で行われた「消防ホースコースターづくり」で使用されました。これは、穴があいて使うことができなくなった消防ホースをアップサイクルして活用するという、環境に配慮した取り組みでもありました。



きぬうらとうぶ 消防フェスタ

# KINU20th フェス (キヌフェス)

創立20周年記念事業のメイン事業として、令和5年(2023)11月19日(日曜日)に、アンフォーレ(安城市)にて開催しました。多くの方々にご来場いただき、イベントを通して消防士と地域の皆様との交流を図ることができました。



オープニングセレモニー



会場風景



やってみよう!水消火器体験



つくろう!消防ホースコースター



はしご車展示



ひっぽろう!消防自動車



響け!消防局音楽隊



パンフレット



きてみよう!防火服



煙体験ハウス



火の用心三唱

衣浦東部広域連合創立20周年  
記念事業の実施にあたり、  
下記の皆様からご協力を賜りました。  
心よりお礼申し上げます。

(敬称略、50音順)

【ご寄付をいただいた皆様】

- 愛知県厚生農業協同組合連合会  
安城更生病院
- 愛知製鋼株式会社
- あいち中央農業協同組合
- 伊藤忠製糖株式会社
- 有限会社カミヤ設備
- 黒金化成株式会社 知立工場
- 株式会社コーリツ
- 小林クリエイト株式会社
- 株式会社近藤石油
- 株式会社サカキバラコーポレーション
- 株式会社ジェイテクト
- 株式会社JERA 碧南火力発電所
- 城東電機株式会社
- 西三印刷株式会社
- 高浜電工株式会社
- 中央精機株式会社
- 株式会社デンソー
- 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院
- トヨタ自動車株式会社 衣浦工場
- トヨタ車体株式会社
- トヨタ紡織株式会社
- 内外ガード株式会社
- 株式会社ナルセコーポレーション
- 公益社団法人日本モーターボート選手会  
勤労青少年水上スポーツセンター
- 白半建設株式会社
- フタバ産業株式会社 知立工場
- 株式会社碧海総合研究所
- 株式会社マキタ

ほか、企業・個人の皆様



衣浦東部広域連合 創立20周年記念誌

発行 令和6年3月

発行者 衣浦東部広域連合

〒448-8677

愛知県刈谷市小垣江町西高根204番地1

TEL:0566-63-0119 FAX:0566-63-0130

<https://www.kinutoh.jp>



衣浦東部広域連合  
ホームページ